

障がい者スポーツ指導員養成における実習活動の報告

Report on the Training of Para-Sports Instructor at St. Catherine University

曾我部 敦介・近藤 益代

1. はじめに

日本における障がいのある人々のスポーツ振興は、1964年に開催された第2回パラリンピック東京大会を契機に本格化した。1965年には日本障がい者スポーツ協会（当時財団法人日本身体障害者スポーツ協会）が設立され、全国身体障害者スポーツ大会（現全国障害者スポーツ大会）も始まった。障がい者スポーツ指導者の養成は、1966年に「身体障害者スポーツ指導者講習会」として始まり、その後「身体障害者指導者認定講習会」、「身体障害者スポーツ指導者研修会」等、実施方法や研修内容の見直しを図りながら毎年行われてきた。1985年に「財団法人日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導者制度」（当時）が施行され、資格取得要件やカリキュラムに基づいた指導者養成が進められてきた¹⁾。

聖カタリナ大学では、2008年に健康スポーツマネジメント学科（現健康スポーツ学科）が初級障がい者スポーツ指導員の資格認定校となり、2012年には、社会福祉学科介護福祉専攻においても資格を導入することとなった。2018年8月現在、全国の初級認定校は151校である。

本学学生は初級障がい者スポーツ指導員の資格取得を目指し、その実習活動として愛媛県障がい者スポーツ大会にスタッフとして参加している。本稿では、今後の障がい者スポーツ実習における学生指導の基礎資料とすることを目的とし、障がい者スポーツ指導員養成における養成カリキュラム内容と、実習活動についての報告を行う。

2. 障がい者スポーツ指導員養成について

1) 初級障がい者スポーツ指導員

本学では、日本障がい者スポーツ協会が設定しているカリキュラムに沿って初級障がい者スポーツ指導員を養成している。障害者スポーツ、レクリエーション概論、レクリエーション指導法 A、レクリエーション指導法 B という授業科目の単位を修得することによって初級障がい者スポーツ指導員資格を取得することができる。この資格の役割は、「地域で活動する 18 歳以上の指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援すること。また、障がいの基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導ができること。さらに地域の大会や行事に参加すると共に、指導者組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支えること」²⁾ である。

スポーツを始めたばかりの障がい者に対して支援を行い、スポーツの楽しさや喜び、達成感などを重視しながらサポートすることが主な役割である。スポーツを導入するために必要な基本技術や知識を身につけていると共に、健康や安全を的確に管理できることが求められている。さらに、地域で行われる大会や行事、および指導員で組織される団体の事業にも積極的に参加し、障がい者スポーツの地域振興も支えていくことが期待されている。

また、上位資格として、中級障がい者スポーツ指導員、上級障がい者スポーツ指導員があり、その他、障がい者スポーツコーチ、障がい者スポーツ医、障がい者スポーツトレーナーという障がい者スポーツをサポートする資格も設定されている。

2) 養成カリキュラム

表1 初級障がい者スポーツ指導員 基準カリキュラム

基準カリキュラム	内容	具体的内容
①障がい者福祉施策と障がい者スポーツ	障がい者福祉施策の体系、サービス体系、今後の動向と障がい者スポーツとの関連性を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者福祉施策の変遷 各障がいに関係する法律 障がい者の生活と実態 日本の障がい者数、障がい者福祉サービス 障がい者福祉施策と障がい者スポーツの関わり
②ボランティア論	ボランティア精神と活動の基本的姿勢を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアとは ボランティアの魅力 心得と注意点
③障がい者スポーツの意義と理念	障がい者のスポーツの捉え方やその意義、効果を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 身体的、精神的、社会的意義や効果
④安全管理	スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 安全配慮義務 リスクマネジメント
⑤障がいの理解とスポーツ	各障がいの主な特性を学び、その特性に配慮しながら安全にスポーツを実施させるために必要な最小限の知識を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの分類（身体障がい（肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい）、知的障がい（発達障がいを含む）、精神障がい（統合失調症、うつ病など）） 障がいの原因となる疾患 スポーツを行う際の注意点
⑥（公財）日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度	日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者の役割や組織について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 指導者制度の目的 資格の種類と役割 指導者資格の取得方法 資格取得後の活動 地域における障がい者スポーツ団体の役割、活動
⑦全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の開催目的や実施競技、一般競技とは異なる点などの概要を学ぶとともに、大会がスポーツ未経験者や初心者の方のスポーツ参加の大きな動機づけになっていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 大会開催の目的 競技規則の原則 実施競技の概要
⑧障がいに応じたスポーツの工夫・実施	障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためには、既存のルールや用具をどのように工夫したらよいかを実践を通して学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 対象者は誰か（障がいの種類や程度、他の障がい者や健常者と一緒かなど） 実施場所（環境）、用具、ルールの工夫など
⑨障がい者との交流	スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞く。または、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを体験する。	<ul style="list-style-type: none"> スポーツをしている障がい当事者の話を聞く 大会や教室の補助、一緒にスポーツを楽しむ スポーツセンター見学、施設実習など

（日本障がい者スポーツ協会 基準カリキュラム³⁾を一部改変）

本学では、①障がい者福祉施策と障がい者スポーツ、②ボランティア論、③障がい者スポーツの意義と理念、④安全管理、⑤障がいの理解とスポーツ、⑥日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度、⑦全国障害者スポーツ大会、⑧障がいに応じたスポーツの工夫・実施、⑨障がい者との交流、という基準カリキュラム内容（表1）で養成を行い、2-1)で述べた4教科の中に取り入れている。特に⑨「障がい者との交流」は、学生が障がいの理解や障がい者への対応を実践的に学ぶため、学外の実習活動として取り組んでいる。

3. 実習活動について

1) 愛媛県障がい者スポーツ大会

毎年、愛媛県松山市において、愛媛県障がい者スポーツ大会が開催され、本学学生は大会スタッフとして参加している。この大会は、「障がいのある選手が、競技等を通じスポーツの楽しさを体験し、互いに親睦を深めていただくとともに、県民の皆様に障がいに対する理解を深め、障がいのある方の社会参加の推進に寄与すること」⁴⁾を目的とし、愛媛県、愛媛県障がい者スポーツ協会、愛媛県身体障害者団体連合会などが主催している。選手として出場するには、13歳以上の身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者などの条件があり、本大会の成績は、全国障害者スポーツ大会の愛媛県代表選手の選考資料となる。

表2 愛媛県障がい者スポーツ大会種目

競技	種目	場所
①陸上競技 (15種目)	50m、100m、200m、400m、800m、1500m、スラローム、4×100mリレー、走り高跳び、立ち幅跳び、走り幅跳び、砲丸投げ、ソフトボール投げ、ジャベリックスロー、ビーンバック投げ	ニンジニアスタジアム
②卓球 (2種目)	一般卓球、サウンドテーブルテニス	補助体育館
③アーチェリー (4種目)	リカーブ(50m・30m、30m・30m) コンパウンド(50m・30m、30m・30m)	補助競技場
④フライングディスク (4種目)	アキュラシー(ディスリート5、ディスリート7)、ディスタンス(座位、立位)	補助競技場
⑤ボウリング (1種目)	※一般のルールと同様に実施。4ゲームのトータルで順位を決定する。	キスケKIT
⑥水泳 (10種目)	自由形(25m、50m)、背泳ぎ(25m、50m)、平泳ぎ(25m、50m)、バタフライ(25m、50m)、4×100mリレー、4×100mリレー	アクアパレットまつやま

大会競技は、①陸上競技、②卓球、③アーチェリー、④フライングディスク、⑤ボウリング、⑥水泳が実施される(表2)。2019年度愛媛県障がい者スポーツ大会は、5月26日に愛媛県総合運動公園のニンジニアスタジアムにおいて陸上競技、補助体育館において卓球、補助競技場においてアーチェリー、フライングディスクが実施された。

7月13日にアクアパレットまつやまにおいて水泳、6月15日にキスケKITにおいてボウリングが実施された。愛媛県総合運動公園での大会に本学の障がい者スポーツの授業を履修する34名が参加した。大会参加選手は、陸上競技は764名、アーチェリーは16名、卓球は168名、フライングディスクは655名と合計1603名であった⁵⁾。

2) 事前オリエンテーション

2019年5月17日に、愛媛県スポーツ局・地域スポーツ課による、実習前のオリエンテーションを実施した。愛媛県障がい者スポーツ大会概要、学生の活動内容、マナー、大会期間中の行動

計画・準備についての説明が行われた。また、身体障がい・知的障がい・精神障がい（発達障がい）の理解や、簡単な手話などのコミュニケーション方法や車いすの押し方などのサポート方法の講義を実施した。

3) 学生スタッフの担当

表3は、実習当日の学生スタッフスケジュールである。本学学生は、招集誘導係（学生18名）と表彰誘導係（学生16名）の担当となった。招集誘導係は、主に陸上競技及びフィールド競技の選手の招集と競技場所への誘導を担当し、留意点として次の5点がある。①競技の招集誘導を行う。特に知的障がい者はよく動くため、呼び出して確認したら座らせる。②ゼッケン番号・所属、名前を大きな声で読み上げ、組ごと又はコース順に並べる。③選手を競技場外へ連れて行くときは、プラカードを先頭に、欠場情報の確認者、その後ろを選手団、両側と最後尾をスタッフで囲み、途中はぐれる選手が出ないように連れて行くこと。トラックを横断する時は、トラック競技の妨害をしないよう最新の注意をはらうこと。④誘導図をよく確認して、その誘導の矢印のとおり誘導すること。⑤欠場情報を審判または記録係に知らせる。トラック競技は組ごとにコース順に並べ、スタート時に審判に欠場情報を伝えるようにすること。選手が全員スタートしたら元の招集場所に戻る。

表3 学生スタッフスケジュール

時間	内容
7:55	中央公園広場集合
8:00	スタッフミーティング
8:30	開会式の隊形に集合
9:00	開会式
9:20	欠席情報の共有
9:45	招集開始
10:00	競技開始
16:00	閉会式

表彰誘導係は、主に陸上競技場及びフィールド競技の選手の退場及び表彰場所への誘導を担当し、留意点として次の5点がある。①必ず3人一組で行動すること。ピンク・白の記録表を表彰係に渡す人、黄色・白の記録表を記録係に渡す人、選手に付きそう人で協力すること。②左から2位、1位、3位で並ばせ、県責任者の指示により、メインスタンド下に外側から入り、表彰待機場所にて表彰係にピンク・白の記録表を渡し、記録係に黄色・白の記録表を渡し、指示に従う。③引率した選手の表彰が全て終わった段階で、メインスタンドを出て、外周から第1ゲートに誘導して、出迎えの施設等の職員に引き継ぐ。④4位以下の選手は、県責任者の指示により、第1ゲートに誘導し、施設等の職員に引き継ぐ。⑤トラックを横断する時は細心の注意をはらってトラック競技の妨害をしないように横断する。

また、開会式においては、①開会式に参加する選手がフィールド内に集まってくるため、車いすの移動の介助や、選手団の配置誘導などを行う。②各選手団の先頭にはプラカードを持ったボーイスカウトが配置されているので、プラカードを目印に各選手を所定の場所まで誘導する。③熱中症等で体調不良の選手がいれば、本部役員に連絡する。閉会式が終了し、退場の際は第1ゲートに向かって選手は退場するため、トラックの両側に並んで拍手で見送るなどの役割もある⁶⁾。

このように大会では、学生は各系のスタッフとして、学内での学びを基に、多くの役割を注意深く実施しながら、参加選手が競技に集中できるような関わり方を実践している。

4. 実習における学生の感想

実習終了後、学生は報告書を作成する。表4はその報告書の学生コメントの抜粋である。多くの学生が実習は大変であったが、実習内容は充実しており、自分自身の課題を見つけることができ、今後の学生生活活動に役に立つ実習であったと感じている。特にコミュニケーションの取り方について課題を持った学生が多く、障がい者と積極的に関わってしっかりサポートできた学生ほど実習が充実している内容となっている。

表4 学生の感想（抜粋・原文ママ）

参加する選手に最高のパフォーマンスができるように手助けすることができたと思います。
何かに一所懸命がんばることはとてもかっこよく見えて、人の心を動かすぐらいいいものだと思います。
一番良かったのは1人1人競技が終わった後みんな笑顔でスタッフの人も笑顔で、とても楽しい1日になりました。
今回の実習でより人と関わると言うことの楽しさや大人数での大会の時どのような行動が一番善いのかを学ぶことができた。
車いすに乗っていたら段差があるということになかなか気付かず、怖い思いをしたり転倒する危険性もあるため、声かけを心がけました。
この大会で選手と交流したり応援をすることで、スポーツを通して一体になれることに感動しました。
選手の方たちとどう接したらいいのかかわからず、あまり声掛けをすることができなかったのがすごく悔しかった。
どういった所で手を貸しても大丈夫なのか、全くわからなかったので、介助者の方を見てすごく勉強になりました。
障がい者スポーツは、まだ社会に広がってないということを実感し、悲しい気持ちになった。
今回の実習では常に相手の立場に立って行動するというのを自分の中で決めてました。
頑張ってコミュニケーション力をもっとあげたいと思いました。
この大会で選手の人と一緒に同じ喜びをわかち合えた事、楽しく話せた事とてもうれしかった。
自分たちにはできないようなことを普通にしている人もいました。驚くことがたくさんあり、とても勉強になる1日だったと思います。
今回、身を持って体験してみて、障がい者スポーツの迫力、感動を味あうことができ、とても良い経験になりました。
一番強く感じたのは選手の人達の熱意や真剣さである。それは競技前の選手の表情からも見てとれた。
自分達の様な健常者にも勇気や頑張ろうという気持ちを呼び起こすきっかけを与えてくれていると思う。
コミュニケーションをとることができ、とてもうれしい気持ちになると共に来年も頑張るね、という思いも伝えることができました。
障がい者の選手はそれぞれの障がいの度合いによって話し方などを変えないと伝わらないことが多かったのでもって考えて話をしていました。
大会のスタッフの多くはボランティアに支えられており、そのスタッフの仕事ぶりはみなさん真剣に取り組んでいました。
私は障がい者と聞くと、困っている人、大変そうなどマイナスなイメージを持っていました。
大会に出場する方々は障がいを感じさせないくらい競技に一生懸命に取り組んで楽しんでやっていた。
自分たちが障がい者のボランティア・サポートをするのに、むしろ障がい者から様々なことを学び、考え方も変わりました。
仕事が残っていないか聞いて、自分にできることを最後まですることが大切だと思ったので、次からは行動にうつしていきたいです。
自分が伝えたいことを明確に伝えられるような方法、コミュニケーションの取り方を授業や経験で身に付けていきたいと思った。
競技者の方に「ありがとう」と言われて、役に立っているという実感することができ、とてもやり終えて気持ちが良かったです。
自分から積極的にコミュニケーションを取っていくことで、人とつながりもでき、障がい者への考え方や接し方も変わってくると思った。

5. おわりに

聖カタリナ大学は、初級障がい者スポーツ指導員の認定校であり、日本障がい者スポーツ協会の基準カリキュラムに基づいて養成している。愛媛県障がい者スポーツ大会に学生スタッフとして参加し、実際に障がい者とコミュニケーションを取ることで得られた課題や学びも多くあった。初級の資格取得を目指した実習ではあるが、スタッフとして大会のスムーズな運営を支えつつ、目の前の選手への臨機応変な対応が求められる。大会においては、自分の能力を最大限に発揮し、限界に挑戦する選手の姿が多く見ることができ、その選手をサポートする学生も積極的に活動していた。学生スタッフが積極的に活動することにより、選手も競技に集中することができると考える。

今後は、各障がいに応じたサポート方法をより深く学び、コミュニケーション能力を向上させていく必要がある。障がい者スポーツに関わるボランティア情報を学生に積極的に提供し、実践の機会を多く設けていきたい。また、実習報告会を実施することにより、各自の経験を振り返りながら実習での学びを共有し、実践力のある学生を養成していきたいと考えている。

スポーツ基本法の成立や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定などを皮切りに、スポーツ庁の設立やスポーツ基本計画の策定など、日本における障がい者スポーツを取り巻く環境は近年大きく変化している。それに伴い、障がい者スポーツ指導員の需要の増加や、指導員に求められる知識や技術が更新されることが予見される。初級を取得した学生が、上級の資格に挑戦する可能性を広げるために、本実習は重要な機会になっていると考えられる。

引用文献

- 1) 日本障がい者スポーツ協会「公認障がい者スポーツ指導者制度」 p 1、2019.
- 2) 前掲書 1)、p4.
- 3) 日本障がい者スポーツ協会「初級障がい者スポーツ指導員カリキュラム」
https://www.jsad.or.jp/training/pdf/nintei_curriculum_syokyu_171207.pdf (2019. 10. 1)
- 4) 愛媛県スポーツ・文化部スポーツ局地域スポーツ課「第 14 回愛媛県障がい者スポーツスポーツ大会ボランティア説明資料」 p18、2019.
- 5) 前掲書 4)、p17.
- 6) 前掲書 4)、p2-p3.